



# TOCHU SDGs REPORT

2030年に向けた取り組み

2023年度版

## TOCHU × SDGs

いつも砂夢 **THING NEXT "THE NEW!!!"**

Always dreaming of sand to something next "the new!!!"

※表紙写真は、現在社内で行っている「2030SDGsゲームキット」です。持続可能な開発目標(SDGs)を体験しながら楽しく学ぶことができるツールです。



SDGs 宣言



トウチュウは、職場の仲間、地域の皆様、取引先様からの支援を頂き、創業90年を迎え、100年に向けた一歩を歩み始めました。SDGsの取り組みも3年が経過。今回も2023年度版 SDGsレポートの報告を行うことが出来ました。これも皆様のご支援ご協力を受け事業を積み重ねることが出来た結果です。心から御礼申し上げます。

2023年度版 SDGsレポートにて8つのKPI目標の進捗を報告致しますが、その前にご挨拶をさせていただきます。

弊社は、SDGsの進め方として、背伸びをせず着実に取り組み、長期的な視点でアプローチをしております。また、8つのKPI目標の達成には、トウチュウで働く皆さんが、自然にSDGsを取り入れ自ら行動できる人材へのトランスフォームが重要と感じております。そこで2023年度の終盤に、基幹教育体系の中に『SDGs教育』を取り込むことを決め、『2030SDGsゲーム』研修を一部のメンバーとともに自ら体験致しました。ゲームの参加者から、①社内コミュニケーションの重要性、②業務の戦略的アプローチ、以上の気づきが生まれたことを感じました。

2024年度は、『2030SDGsゲーム』研修の社内展開を加速させ、自然にSDGsに取り組む人材育成を進めて参ります。SDGsやCO2排出量削減などの目標を達成するために、大きな投資が必要となることは認識していますが、2022年から立ち上がりました3か年計画において、この3年間は投資を行うための準備期間と位置付けております。様々な分野の情報や対応策などを幅広く収集し、どのタイミングにおいて投資効果を発揮し易いかも現在検証しております。この投資タイミングをより効率よく進めるためにも、現時点での従業員のSDGs概念への意識改革は急務です。

トウチュウで働く皆さんが、自然にSDGsを取り入れ自ら行動できる人材へのトランスフォーム・・・これを2024年度は取り組んでまいります。

株式会社トウチュウ 代表取締役社長 森田剛司

社訓

責任感

誠実

一致協力

経営理念

「品質至上で冠たる企業の創造」

常に自然環境との調和を保ち価値ある品を求めてこそ、

- ・ お客様の満足が得られ
・ 責任感と誠実さをもって、一致協力すれば、信頼され
・ みんなの幸せと企業の繁栄が得られる。

品質方針

源流からの品質保証に徹し、価値のある製品をタイムリーに提供することにより顧客の信頼に応える

- ①お客様は何に困っておられるのか、そのニーズを常に情報収集し、改善に繋がります
②お客様からのクレームには、何よりも最優先し、迅速に対応します
③クレームや不良品が発生しないように、品質レベルの向上に努めます
④協力会社を含めて、改善活動を行います
⑤関連する法規制を遵守することにより社会的責任を果たします

環境方針

当社が事業活動を行うに当たり、環境に関する規則、条例等の遵守と汚染の予防に努めます。又、事前活動及び当社が提供する商品に係わる環境影響を低減するため、環境目的・目標を設定し、計画的な実践と見直しにより環境マネジメントシステムと下記事項の継続的改善を推進します。

- ①環境負荷となる廃棄物の低減
②生産の効率化によるエネルギーの低減
③生産ロス追求による資源の有効活用
④環境に配慮した商品の提供
⑤工場立地条件を考慮した環境リスクの低減
尚、全従業員の環境意識を向上させるため、教育、啓蒙活動を積極的に推進します。



**7** エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに



**9** 産業と技術革新の  
基盤をつくろう



**12** つくる責任  
つかう責任



**めざす姿**

CO<sub>2</sub>排出削減

2030年までにCO<sub>2</sub>排出量▲30%（2018年比）を目指すことを目標とし、2024年までには具体的な削減施策を立案すべく、『排出量の見える化』と『再生可能エネルギー発電 電力活用』に向けた社内体制整備に主眼を置き取り組みを開始します。

**活用資源** CO<sub>2</sub>排出量削減推進委員会

メイン(サブ)ターゲット	自社取り組み内容	業績達成目標		
		社内指標/指針	数値評価	期間
7.2	再生可能エネルギーにて発電された電力活用推進	再生可能エネルギー電力活用に向けた社内体制の整備	100%完了	～2022年
9.4	生産における省エネ活動の推進	電気/ガス設備の使用量見える化整備	100%完了	～2024年
12.5	省エネ知識の啓蒙	SBTを含めたCO <sub>2</sub> 削減勉強会の年一回開催	100%完了	～2024年

自社取り組み内容の現在の進捗状況

- 再生可能エネルギー電力活用に向けた社内体制の整備 **※完了**  
野間地区（野間事業所、製鋼事業所、アルミ事業所）の各事業所に、カーボンニュートラルを推進する担当者を設置。CO<sub>2</sub>排出量削減推進委員会において、各事業所のCN推進担当者から活動報告頂く体系の整備を完了している。  
  
※野間地区6拠点のうち4拠点への整備完了(66.7%)
- 電気/ガス設備の使用量見える化設備 **※県外拠点は、野間地区での運用や取組が確立次第、整備を開始する。**  
中部電力ミライズの消費電力見える化システムについて、野間事業所、アルミ事業所、製鋼事業所への設置完了。各事業所においても、保全担当者を中心に電力監視を開始。新規導入設備への省エネ効果検証にも役立っています。
- CO<sub>2</sub>削減勉強会の年1回開催 **※2023年度 2030SDGsゲーム研修 2回開催し完了**  
森田社長より「2030年までに自らSDGsを捉え、活動できる人材を育成する」から端を発し本社、テクノブロックの社員と森田社長との「2030SDGsゲーム研修」を開催。  
基幹教育体系として2024年度から取り組むことが決定した。

Pick up!

CDPスコアレポート 気候変動2023

【トウチュウのCDPスコア】

B

【CDPスコアの平均値】

B

輸送機器グループ

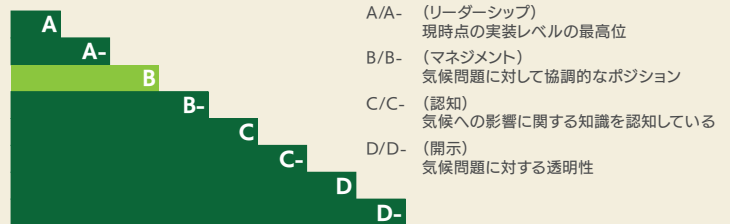
C

アジア地域

C

世界平均

■スコアレポートを理解する



株式会社トウチュウは、Bランク（マネジメントレベル）を獲得。この結果は、アジア地域『Cランク』よりも高く、輸送機器部門グループ『Bランク』と同じスコアである。

※CDP (Carbon Disclosure Project) は、企業や自治体の環境情報を開示する国際的なNGOです。



めざす姿

資源利用効率の向上

紙の製造には、水だけでなく多くのエネルギーを消費し自然環境にも影響を及ぼします。また、社用車に対してもクリーン技術を取り入れたFCEV、PHV、HV、EV車の導入を推進、自然環境保全にも取り組みます。

活用資源 経営サービスセンター

メイン(サブ)ターゲット	自社取り組み内容	業績達成目標		
		社内指標/指針	数値評価	期間
9.4	社用車へのFCEV、PHV、HV、EV車の導入推進	FCEV、PHV、HV、EV車への乗換	100%達成	~2030年
	ペーパーレス化の推進 ※2020年比 50%削減	IT化による紙資料の削減	-	~2030年

自社取り組み内容の現在の進捗状況

■2023年度 社用車のFCEV、PHV、HV、EV等の導入状況について



■2023年度 ペーパーレス化の進捗状況について



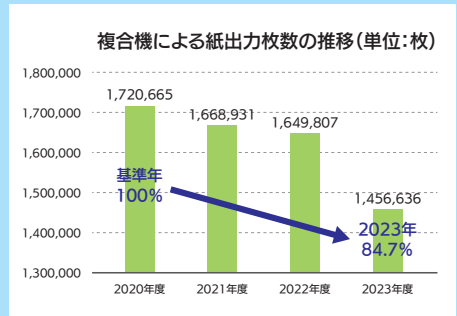
Pick up!

社用車のFCEV、PHV、HV、EV化

各事業所、調達部、設備投資委員会など、組織を含め、KPI目標への意識浸透が進んできており、社用車のFCEV、PHV、HV、EV化が徐々にではありますが、進み始めています。乗用車両では、47.2% (前回比+2.5P)、産業用車両は、20.3% (前回比+3.6P) に至っています。課題としては、大型重機やトラック車両に用いられているディーゼル燃料車の転換が滞っています。ブレークスルー(科学技術の飛躍的進歩)を待つばかりではなく、バイオディーゼル燃料の検証についても検討に入ります。

ペーパーレス化

2023年度は、基準年(2019)と比較し、▲15.3%まで削減が進んでいます。2022年度との比較では、▲10%の削減となった。SDGsの活動を始めて3年目となり、徐々にではあるが『ペーパーレス化』の意識が高まってきています。特に事務系部門の削減が進んでおり、「印刷やコピーにおいてどの用途が多いか?」現状分析を個別に行い、削減するには何が必要か?を自身で考え行動した結果であると報告を受けています。一方で削減幅が少ない事業所については、「お客様への注文書や請求書の発行等が一つの要因にもなっている」との声もあがっております。今後ペーパーレス化を進めていくためには、システムも含めた電子化を進める手法も取り入れるタイミングであると認識を持ち始めています。





めざす姿

環境に配慮した  
新しい製品開発

トウチュウは、鋳物用珪砂事業に取り組み『再生砂』の開発に成功。今後についても『いつも砂夢 THING NEXT THE NEW』を掲げ、環境に配慮した製品開発を目指します。

活用資源 技術開発部

メイン(サブ)ターゲット	自社取り組み内容	業績達成目標		
		社内指標/指針	数値評価	期間
9.4	環境に配慮した新しい製品開発	新しい製品開発	5点開発	～2030年
12.5				

自社取り組み内容の現在の進捗状況

■2023年度  
環境に配慮した新しい製品開発

**2点開発達成**

※2030年までに5点開発目標

■2023年度  
現在進行中のアイテム

**1点開発中**

※2030年までに5点開発目標

Pick up!

環境に配慮した新しい製品開発

現在進行中の製品開発として、『3Dプリンタ砂型用鋳物砂の製造時にSO<sub>x</sub>(硫黄酸化物)が排出されない製品開発』があります。鋳造業界における砂型の製造は、従来の木型工法では工数やコストの削減に限界があり、技術者の高齢化と後継者不足も重なって、より高精度・高難易度かつ短納期・低価格の市場要求にこたえることが困難な状況です。そのため、3Dプリンタでの砂型製造が注目を浴びています。NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)のような国立研究開発法人も民間企業と連携して、「鋳物用砂型3Dプリンタを活用した省力化」に取り組んでいます。

トウチュウでは、今後3Dプリンタでの砂型用材料のマーケットが拡大することを見越し、大気汚染物質であるSO<sub>x</sub>(硫黄酸化物)を排出しない硬化剤を用いた3Dプリンタ砂型用鋳物砂の開発に着手しています。砂型を形成する為に使用する硬化剤は、高温になるとSO<sub>x</sub>(硫黄酸化物)を発生させ、大気汚染や酸性雨の原因となるだけでなく、人体にも悪影響を及ぼすことがあります。大気汚染の抑制だけでなく、作業環境の安全を確保できる3Dプリンタ砂型用鋳物砂は、今後環境に配慮する企業が増える中で、需要が増加すると考えています。本製品は2024年度下期の商品化を目指し、現在開発を急いでいます。これからもトウチュウでは、『砂の未来』を追い求めます。





めざす姿

環境負荷低減製品の拡販

トウチュウの主力事業の一つ『RCS』事業。作業環境負荷低減のRCSを拡販し作業環境だけでなく、廃棄物の低減、珪砂の再生利用にもつながり、人体影響、省資源化、廃棄物の削減に貢献します。

活用資源 正:営業本部 副:RCS事業部

メイン(サブ)ターゲット	自社取り組み内容	業績達成目標		
		社内指標/指針	数値評価	期間
12.4	環境負荷低減製品の拡販	速乾性水性塗型剤の拡販	360トン切替	～2024年
12.5		環境負荷低減樹脂の拡販	360トン切替	～2024年
		作業環境対策RCSの拡販	5件	～2024年

※RCSとは、レジンコーテッドサンドの略称です。

自社取り組み内容の現在の進捗状況

■2023年度 速乾性水性塗型剤の拡販

75t

※2024年まで 目標360t拡販

■2023年度 環境負荷低減樹脂の拡販

63t

※2024年まで 目標360t拡販

■2023年度 高易崩壊RCSの拡販

7件獲得

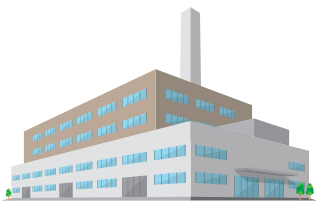
※2024年まで 目標5件獲得

Pick up!

環境負荷低減製品の拡販

- ・既存顧客へ速乾性水性塗型剤/環境負荷低減樹脂の有効性(塗型剤乾燥に係わるエネルギーの削減/工程時間短縮)をお客様に理解頂き始めた結果、目標数値達成率20%ほどですが、2024年度以降も拡販の手ごたえを感じております。
- ・環境負荷低減製品を購入しているお客さまの傾向として、自動車部品業界のお客さまがメインとなっており、大手部品メーカーのサプライチェーンにて繋がりがあのお客さまからのニーズが大半です。
- ・少しずつですが、コスト高になっても環境負荷が少ない商品を使用するお客さまが拡大してきています。

■環境負荷低減製品 を求める企業の特長



①大手企業  
サステナブル経営を実践



②中小企業  
SDGsやCNを先進的に  
取り組んでいる

■今後の拡販のためのポイント

- ・サステナブル経営の重要性や、SDGsを取組む意義などを、お客さまへ醸成するようなアプローチが重要

※『サステナブルとは』  
環境、社会、経済の三つの観点から、将来世代のニーズを満たしつつ、現在のニーズも満たすことを目指す概念

5 ジェンダー平等を  
実現しよう



## めざす姿

### 働きたいと思っている女性の 雇用機会を増やす

男性中心の鋳物/珪砂事業という枠組みを壊し、『女性の特性を生かした働き甲斐ある製造業を目指す』ことを掲げ、女性の雇用機会の創出、女性管理職の登用を目指したキャリアアップの仕組み構築。女性が働きやすい社内環境の整備を行い、誰もが平等に活躍できる場の提供に取り組みます。

#### 活用資源

総務人事部

メイン(サブ)ターゲット	自社取り組み内容	業績達成目標		
		社内指標/指針	数値評価	期間
5.1 5.4	働きたいと思っている女性の雇用機会を増やす ※社内女性社員比率 20%	保育、介護に対する社内制度の充実	取組中	~2030年
		女性の特性を生かした業務環境の整備	取組中	~2030年
5.1 5.5	女性社員に対する適正な評価を推進する ※管理職比率 10%	性別に左右されない人事評価の仕組み整備	取組中	~2030年
		女性の特性に合ったキャリアアッププランの構築	取組中	~2030年

### 自社取り組み内容の現在の進捗状況

■ 2023年度

トウチュウにおける女性社員比率

14.4%

※2022年より0.1P上昇

■ 2023年度

トウチュウにおける女性管理職比率

7.0%

※2022年より1.0P増加

Pick up!

#### 働きたいと思っている女性の雇用機会を増やす

##### 女性の特性を生かした業務環境の整備

トウチュウでは、公益社団法人日本プラントメンテナンス協会が認定する『自主保全士』資格の取得を従業員に推奨しており、製造オペレーターに関わる自主保全の知識だけでなく、品質や原価等にも関わる知識も含め幅広い製造知識が身につく資格となっています。

2023年度は、2名の女性が自主保全士の資格取得に挑戦しており、野間事業所磯貝さんは、自主保全士1級に合格。もう1名は亀崎工場に勤務する山本さんと、2級に合格致しました。磯貝さん、山本さんへ資格取得後、お話を伺うとお二人とも共通して語られるのは、「男性にはない視点を生かして業務にあたっています」と口を揃えます。同僚の男性社員には、技術的な知識や、スキルを活用する作業はかないませんが、コミュニケーションやチームの和をつくる能力は女性の方が高く、同僚や上司とつなぐ役割を担っています。また細部にまで目が行き届き検査や品質管理の作業では、上司から評価を頂くとの発言もございました。

また山本さんからは、『保全』業務についてことも知識もないところから、トウチュウに入社。疑問に思ったことを同僚や上司にヒアリングし、一つずつ解決することで技術を磨き、知識も習得。今回資格取得に繋がったとのこと。

お二方も勉強熱心で、「自身が取り組んでいる後工程の仕事の流れも知りたい」との声から、後工程の現場視察を是非かなえて欲しいと、要望もございました。

当社では、女性の働きやすい環境をハード面でもソフト面でも整え、KPI目標の達成に向け、少しずつですが進んで参ります。







めざす姿

外国人への就業の場創出

自国の情勢悪化等により日本で働きたい、または、日本の技術等のスキルを得たいといった意志を持つ外国人に対し、就業の場を創出し、トウチュウにおける珪砂の知識やアルミを素材とする鋳物での部品製造、鉄やステンレスを原料とする鋳造品の技術を得る環境を整えていきます。

活用資源 経営サービスセンター

メイン(サブ)ターゲット	自社取り組み内容	業績達成目標		
		社内指標/指針	数値評価	期間
10.2	採用	外国人の採用(新卒含む)	10名採用	~2030年
	外国人に対する職業体験の場の提供(新卒含む)	就業体験の場 提供数	10名受入	~2030年

自社取り組み内容の現在の進捗状況

■2023年度  
外国人労働者雇用の推移

**4名採用**

※目標 10名(2030年までに)

■2023年度  
就業体験の場 提供数

**21名へ提供**

※目標 10名(2031年までに)



外国人への就業の場創出

2024年度の新卒採用として、インドネシア国籍のアブラ・アルファリシさんが入社しました。

トウチュウにおいて新卒で外国人を採用するのは、アブラさんが初めてです。アブラさんは大学で国際開発学部を専攻し、「資源開発」や「資源政策」を学びました。入社後は、そのスキルを活かすために資源部(海外鉱山から国内への珪砂輸入及び、販売業務)に配属されました。資源部の管掌役員である杉本取締役は、アブラさんに「インドネシアのマーケット調査」や「インドネシア珪砂の日本への輸入業務」を担当させることを期待しています。

アブラさんは、トウチュウでの働きやすさに非常に満足しており、「日本語が流暢でないため、うまく伝わらないことがあっても、親切で親身に対応してくれる」と話しています。また、宗教や慣習の違いにも配慮してもらっていると話しています。

日本では2019年をピークに労働力人口が減少傾向にあります。その中で、優秀な外国人の雇用は労働力不足の企業にとって救いとなるだけでなく、地域の活性化にもつながると期待されています。今後もアブラさんの雇用を通じて得た知見を活かし、外国人労働者の雇用に取り組んでまいります。



珪砂の一時保管場にて、品質チェックを行うアブラさん



先輩であるナムさんの指導のもと、日々実務を通じて学んでいます。

トウチュウで働いている方の国籍



ブラジル



ベトナム



台湾



中国



インドネシア





活用資源

経営サービスセンター、  
半田特別支援学校、  
春日井高等特別支援学校

めざす姿

障がいを持つ方の採用及び  
職場体験の場提供

生まれつきや事故等により障がいを持つ方に対し、採用を視野にいれた職業体験の場を提供します。未就業の障がい者の方が、働く場所を提供することで収入を得て生きる術を習得し自立するための一助となることで社会貢献を行います。

メイン(サブ)ターゲット	自社取り組み内容	業績達成目標		
		社内指標/指針	数値評価	期間
10.2	採用	障がい者の採用 (パートタイマー含む)	10名採用	~2030年
	障がい者に対し 就業体験の場の提供	就業体験の場 提供数	10名受入	~2030年

自社取り組み内容の現在の進捗状況

■ 2023年度  
障がい者の雇用 (パートタイマー含む)

**2名採用済**

※2018年度から採用のみカウント

■ 2023年度  
就業体験の場 提供数

**提供3名**

※2023年上期 1名受入済

Pick up!

『障がい者の採用』『就業体験の場 提供』について

2021年度からトウチュウでは障がい者雇用に本格的に取り組み、令和6年4月施行の法定雇用率2.5%を達成致しました。さらに、令和8年7月までに法的雇用率2.7%を達成することを目指し、障がい者の採用と就業体験の場の提供に積極的に取り組んでいます。

障がい者採用に向けた活動スタート

2024年7月17日(水)、総務人事部の小島課長が障がい者就労移行支援センターである「AWひまわり」を訪問し、障がい者採用に向けた活動を開始しました。同施設には現在、7名の就業希望者が在籍しており、支援を受けています。視察時には、食品の商品発送のための荷造り業務に従事していました。また、社会福祉士の平岩氏からは、現在受入している障がい者についての説明がありました。現時点では7名の職場体験への派遣が可能です。派遣する方の事情(通勤や特性)がトウチュウの就業環境に合致するか確認が必要とのこと。

今後について、2024年9月にトウチュウでの職場体験受入をAWひまわりへ申し入れ、現在調整中です。トウチュウでは、今後も積極的に障がい者の方へ職場体験の場を提供し、採用へつなげていく予定です。



AWひまわり に在籍している障がい者の皆さん。  
真剣に作業に取り組んでいます。



活用資源

総務人事部、  
メンテナンス統括部、  
品質保証部

めざす姿

問題解決できる人材育成  
QC活動手法の醸成

老朽化設備の修繕や、エネルギー効率を高めた設備の新設等、工場内において発生する様々な課題や問題が発生します。そのため、課題達成、問題解決できる人材を育成するため、QC活動の手法を学ぶ場を構築。その上で設備修繕、新規設備導入を取り組むことができる人材についても同時に育成します。

メイン(サブ)ターゲット	自社取り組み内容	業績達成目標		
		社内指標/指針	数値評価	期間
4.4	QC活動の手法の醸成	階層別教育内 QC活動教育の実施(計6回)	100%完了	~2024年
	設備人材の育成(自主保全士取得)	保全研修センター教育の実施(計18回)	100%完了	~2024年

自社取り組み内容の現在の進捗状況

■ 2023年度  
QC活動教育

■ 2023年度  
保全研修センターでの教育実施回数

10回実施/目標6回(年間)

51回実施/目標18回(年間)



めざす姿:問題解決できる人材育成/QC活動手法の醸成

トウチュウでは、自主保全センターを開所し2012年から保全マンの育成を整えてきました。自主保全センターでの教育は、2023年度は50回を超え、開催率が89.5%に及んでいます。技術的な教育や研修が増え、設備停止も減少傾向にあるのですが、最近では省エネや合理化への意識転換を進めていますが、なかなか進展していない現状がございます。そのため、具体的な省エネ対策の導入や合理化のためのワークショップを開催し、従業員の意識向上を図る取組を強化しています。これにより、持続可能な運営を目指し、さらなる効率化を推進してまいります。



今後の『めざす姿』へのアプローチについて

トウチュウでは、SDGsの取り組みが開始されてから3年が経過しました。森田社長は「2030年までに自然とSDGsの活動ができる人材育成」や「業務の自分事化」を目指しています。しかし、従業員のSDGsに対する知識が希薄であったり、中長期的な戦略立案が不足している現状があります。2021年度からは「2030SDGsゲーム」を新入社員研修や女性研修に導入し、課題の見える化とチームでの解決を推進しています。森田社長も受講し、その有用性を評価しています。今後もこの取り組みを拡大し、従業員の意識改革とスキル向上を図ることで、持続可能な未来を目指します。





## 今後の目標 トウチュウが目指す姿

トウチュウの始まりは、現在の新南愛知カントリークラブ周辺で、珪砂を見つけたことから始まります。

今まで「ただの砂」と思っていたものが、初代社長の「気づき」により、鋳物製品づくりに必要不可欠な『珪砂（野間砂）』の発見に繋がりました。野間砂は、当時の工業製品を鋳造で作るうえで幅広く活用され、自動車メーカー以外で初めてトウチュウが『再生砂』の製造に取り組み、資源小国 日本において、『持続可能』につながる鋳物砂リサイクル事業を構築しました。

その後、国内珪砂だけでは日本の工業が停滞してしまうことをいち早く感じ取り、海外珪砂に注目。国内珪砂、再生砂、海外珪砂をバランスよく用いることで、安定的に珪砂を供給し日本の鋳造業を支えてまいりました。

当社スローガンである 「いつも砂夢THING (something) NEXT "THE NEW"」は、新しい商品や新しい可能性を追求したり、新たな事業基盤を作る

ことを意味しています。ただそれだけに留まることなく新しい気づきや「つながり」、新しい仲間など、これらも含めて「何か新しいもの」を探求することが、大切であると考えています。

そのため、「つながり」や「自分も支点（世界ともつながっており、自分自身も世界に影響を与えることができる）」に気づかせてくれる2030 SDGsゲームを階層別教育に導入し、「自分さえ良ければよい」ではなく、「自分もいろいろな問題に関わっており、自身も影響を与えられる」発想に従業員一人ひとりを変革してまいります。また、障がい者の方、女性の方、外国人の方とともに働き続けられる会社となることにも取り組んでまいります。

『珪砂』につながる、あらゆるモノやコトに目を向け、新しい視点や新しい仲間をつくり、新たな仕組みや世界を創り上げ、持続可能な社会の実現を目指してまいります。

